

## ビデオ映像に対するネガティブな解釈およびポジティブな解釈と社交不安の関係

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-09-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 城月, 健太郎 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://mu.repo.nii.ac.jp/records/271">https://mu.repo.nii.ac.jp/records/271</a>

## ■ 研究報告

## ビデオ映像に対するネガティブな解釈 およびポジティブな解釈と社交不安の関係

---

武蔵野大学 人間科学部

城月 健太郎

### 問題と目的

社交不安障害 (Social Anxiety Disorder;以下SADとする) は不安障害の中でも最も多いとされ、否定的評価の恐れに特徴づけられる (American Psychiatric Association, 2000; Kessler, McGonagle, Zhao, Nelson, Hughes, Eshleman, Wittchen, & Kendler, 1994)。SADは、社会、学業、職業、経済的な機能を悪化させる疾患であるとされている (Katzelnick & Greist, 2001)。SAD患者と高社交不安者は、心理学的・生理学的特徴に類似性があると指摘されている (Turner, Beidel, & Larkin, 1986; Turner, Beidel, & Townsley, 1990)。また、シャイネスから社交不安、SADへの連続性に関しても示唆されている (Rapee, 1995)。

SADの認知モデルや認知行動モデルでは、否定的認知がSAD症状の維持に関与することが指摘されている (Clark & Wells, 1995; Rapee & Heimberg, 1997)。Clark and Wells (1995) は、一つもしくは複数の社会的状況において、SAD患者がどのように他者が自己のパフォーマンスを評価するかについて、過度に否定的に捉えることを指摘した。また、Rapee and Heimberg (1997) は、SAD患者や高社交不安者が、自己評価の歪みがSAD症状を維持する一つの典型的な認知であることを示唆している。従来の研究では、SAD患者と高社交不安者は、自己のパフォーマンスについて、自己評価が他者評価より低いことが示されている (Rapee & Hayman, 1996; Rapee & Lim, 1992; Rodebaugh, 2004)。

いくつかの先行研究において、社交不安の心理学的介入におけるビデオフィードバックが、自己評価の歪みを改善することが報告されている (Harvey, Clark, Ehlers, & Rapee, 2000; Rapee & Hayman, 1996; Rodebaugh, 2004)。Rapee and Hayman (1996) は、高社交不安者と低社交不安者が、ビデオフィードバック後に自己評価の歪みを改善することを示した。また、Harvey et al. (2000) は、ビデオフィードバック前の7分間の認知的準備により、ビデオフィードバックの効果が高まることを示した。Rodebaugh (2004) は、同様にスピーチパフォーマンスの自己評価について、認知的準備によりビデオフィードバックの効果が促進されることを示した。一方、Smits et al. (2006) は、エクスポージャー単独とエクスポージャーとビデオフィードバックの併用の間に、違いを見いだせなかった。この研究では、彼らのテクニックがパフォーマンスフィードバックの提供によって予測バイアスを介入ターゲットに設定していたかもしれず、コストバイアスの再評価の必要性を干渉していた可能性を示唆している。

SADにおいては、社会的状況や情報に関するネガティブな解釈バイアスが、ビデオフィードバ

ックの効果を阻害することが示唆されている。ある研究では、社交不安症状に対するネガティブな解釈の影響が報告されている。Foa, Franklin, Perry, & Herbert (1996) は、健常群に比べて、SAD患者が否定的な社会的状況について、より多く予測し、よりコストを高く見積もることを見出した。Stopa and Clark (2000) は、全般性SAD患者が、あいまいな社会的状況についてより否定的な解釈を多く示すことを報告している。さらに、この研究では、SAD患者らは他の不安障害患者や患者ではないコントロール群よりも、あいまいな状況とやや否定的な状況について、より破局的に解釈することを認めている。Constans et al. (1999) は、高社交不安者が、あいまいな対人交流場面について、ポジティブな解釈の少ないことを報告している。つまり、社交不安者の社会的状況の解釈バイアスは、よりネガティブでありポジティブさに欠けることに特徴づけられる。

これらのことを踏まえると、社交不安者においては、ビデオにおける自己の容姿について、否定的に解釈をする可能性があることと示唆される。この否定的なビデオ映像に対する解釈は、ビデオフィードバックの効果を妨害する可能性があると考えられる。さらに、SAD患者は、ビデオ映像に対する認知として、ポジティブな解釈が欠如している可能性があるとも示唆される。しかし、ビデオ映像に対する否定的解釈・ポジティブな解釈と社交不安症状の関係は、十分に検討されていない。そこで、本研究においては、ビデオ映像に関する解釈の構成について明らかにし、社交不安とこれらの解釈の関係性について検討を行うこととする。本研究では、ビデオ映像に対する否定的解釈は高社交不安に関連し、ビデオ映像に対するポジティブな解釈は低社交不安に関連すると仮定した。

## 方 法

### 調査対象

調査協力者は、368名の大学生であった（男性144名、女性168名、不明56名；平均年齢20.39歳、SD = 2.12）調査協力者に対しては、調査実施前に本研究が匿名で調査を依頼すること、本研究の目的と情報保護について十分に説明した。そのうえで、調査に同意が得られた場合にのみ、回答するよう求めた。

### 調査材料

Japanese Short Fear of Negative Evaluation Scale（以下SFNEとする；笹川・金井・村中・鈴木・嶋田・坂野, 2004）：他者からの否定的評価の恐れは、SADの中核的認知である。社交不安研究においては、the Fear of Negative Evaluation Scale (FNE; Watson & Friend, 1969) やthe Brief Fear of Negative Evaluation Scale (BFNE; Leary, 1983) が広く用いられている。笹川他 (2004) は、日本語版SFNEを作成し、高い信頼性と弁別的妥当性について明らかにした。笹川・金井・陳・鈴木・嶋田・坂野 (2003) は、SFNEが (Mattick & Clarke, 1998) と中程度の相関を示すことを報告した ( $r=0.47-0.49$ )。さらに、笹川他 (2003) は、大学生のSFNEの平均得点が38.20であることを報告している。SAD患者においては、陳 (2005) はSFNEの平均得点が45.59であると示している。

Japanese versions of the Social Phobia Scale（以下SPSとする；金井・笹川・陳・鈴木・嶋田・坂野, 2004）および the Social Interaction Anxiety Scale（以下SIASとする；金井他, 2004）：SPSは、活動場面において他者に観察されることの恐れを測定し、SIASは、全般的な社会的相互交流

場面における恐れを測定する尺度である。Mattick & Clarke (1998) は、これらの尺度を作成し、双方が良好な内的整合性、再検査信頼性、弁別的妥当性を有することを報告した。金井他 (2004) は、SPSとSIASの日本語版を作成した。ともに、20項目5件法からなる尺度である。金井他 (2004) は、双方の日本語版尺度が、高い内的整合性と基準関連妥当性を有することを報告している。

The Japanese version of the Self-rating Depression Scale (以下SDSとする; 福田・小林, 1973) SDSは、20項目4件法からなる自己評価式の抑うつ症状を測定する尺度である。先行研究においては、SDSは抑うつ症状の測定について信頼性と妥当性を有する尺度であることが示されている (Barrett, Hurst, DiScala, & Rose, 1978; Biggs, Wylie, & Ziegler, 1978; Schaefer, Brown, Watson, Plemel, DeMotts, Howard, Petrik, & Ballweg, 1985)。日本人を対象とした検討においては、福田・小林 (1973) は、日本語版SDSは、うつ病患者と健常群とを弁別することを示している。SDSの20項目のうち、10項目は逆転項目として設定されている。SDSは、高得点であるほど抑うつ症状が高いことを意味する。

The Video Interpretation Questionnaire (以下VIQとする) : VIQは、本研究において用意された、ビデオ映像の自己に対するネガティブ・ポジティブな解釈について測定する項目からなる尺度である。先行研究を踏まえ、高社交不安者が低社交不安者よりも、ビデオ映像の自己に対してネガティブな解釈が働き、ポジティブな解釈の低いことが示唆される。そこで、本研究においては、5項目のネガティブな解釈項目と、5項目のポジティブな解釈項目を用意した。これら10項目は、従来の社交不安研究や臨床実践での経験を踏まえ作成された。調査協力者は、各項目について1 (全くあてはまらない) から5 (非常にあてはまる) で評定するよう求められた。本研究では、「以下の項目は、あなたが映っているビデオ映像を見たときにおこる考えを示したものです。それぞれについて、もっともあてはまる番号に一つずつ○をつけてください」という教示により、ビデオ映像に移っている自分をイメージしてもらい、各項目へ回答を求めた。

## 分析方法

初めに、VIQの構成について検討するため、探索的因子分析を行った。第2に、VIQと社交不安の関係を検討するため、VIQと社交不安に関わる尺度との関係を検討した。第3に、抑うつ症状の影響を統制した際のVIQと社交不安の関係を明らかにするため、SDSを制御変数としてVIQと各尺度との偏相関係数を算出した。統計解析には、SPSS Version 16.0 for Windowsが用いられた。

## 結果

### VIQの因子構造

初めに、VIQの因子構造を明らかにするために、最尤法プロマックス回転による探索的因子分析を行った。スクリープロットの形状と値の解釈から、VIQは2因子構造が妥当であると判断された。因子の固有値は、順に4.60、1.69であった。VIQのすべての項目は、いずれかの因子に.50以上の因子負荷量を有し、他の因子への二重負荷についても認められなかった (Table 1)。そのため、除外された項目はなかった。各項目の意味内容に基づき、第1因子はネガティブ解釈 (以下VIQ-negativeとする)、第2因子はポジティブ解釈 (以下VIQ-positiveとする) と命名された。次に、内的整合性を検討するため、Cronbachの $\alpha$ 係数を算出した。その結果、VIQ-negative・VIQ-positive

ともに高い内的整合性を示した（順に、0.88, 0.79）。

### VIQと各尺度間の相関係数

各尺度の平均得点と標準偏差について、Table 2に示す。さらに、VIQと社交不安との関係性を明らかにするために、VIQ-negative、VIQ-positive、および各尺度間のピアソンの積率相関係数について算出した。分析の結果、VIQ-negativeはSFNE、SPS、SIAS、SDSと有意な中程度以上の相関を示していた（順に、 $r=.40, p<.01$ ;  $r=.64, p<.01$ ;  $r=.60, p<.01$ ;  $r=.45, p<.01$ , Table. 3）。さらに、VIQ-positiveはSFNE、SPS、SIAS、SDSと有意な負の相関を示すことが明らかにされた（順に、 $r=-.21, p<.01$ ;  $r=-.27, p<.01$ ;  $r=-.18, p<.05$ ;  $r=-.27, p<.01$ , Table. 3）。

さらに、抑うつの影響を取り除いた際のビデオへの解釈と社交不安の関係を検討するために、SDSを制御変数として、VIQと各尺度間の偏相関係数を算出した（Table 4）。分析の結果、VIQ-negativeは各尺度と有意な正の相関関係を示し（ $r_s >.31, p_s <.01$ ）、VIQ-positiveは、SPSとの相関係数を除き（ $r=-.06, p=.24$ ）、各尺度と有意な負の相関関係にあることが示された（ $p_s <.01$ ）。

## 考 察

本研究の結果、仮説の通り、ビデオ映像に関する解釈の構成について明らかにされ、社交不安と関連する要素であることが明らかにされた。

第一に、VIQは、高い内的整合性と妥当性を有する尺度であることが明らかにされた。因子分析により、VIQはネガティブな解釈とポジティブな解釈の2因子により構成されることが示された。さらに、Cronbachの $\alpha$ 係数によって、VIQは、高い内的整合性を有することが明らかにされた。ビデオ映像に関するネガティブな解釈は、社交不安に関する尺度と有意な正の相関を示し、ポジティブな解釈は有意な負の相関を示していた。これらの結果は、社交不安者が社会的状況についてネガティブな解釈を示し、ポジティブな解釈が欠如しているという従来の研究と同様の結果を示している。さらに、これらの相関係数の値から、VIQの基準関連妥当性についても認められたと考えられる。そのため、VIQは信頼性と妥当性を有していることが示されたと考えられる。

第二に、ビデオ映像のネガティブ・ポジティブな解釈と、社交不安・抑うつ症状に関する尺度との関連性についてである。本研究の結果、VIQの両因子は、社交不安や抑うつ症状と関連することが示された。また、抑うつ症状の影響を取り除くためにSDSを制御変数とした際の偏相関係数からも、VIQと社交不安の有意な関連が認められた。特に、これらの関連については、ネガティブな解釈と社交不安との関連のほうが、強い関係が認められた。これらの結果から、ビデオ映像に関する解釈は、ネガティブな解釈のほうが、より社交不安と関連することが示唆されたといえる。そのため、ネガティブな解釈の変容を進めることが、社交不安の改善により有効となる可能性があると考えられる。

本研究の結果から、いくつかの臨床的示唆が考えられる。第一に、ビデオ映像に対する解釈による、ビデオフィードバックの妨害要因としての影響である。本研究の結果から、高社交不安とビデオ映像に関するネガティブな解釈と関連し、ポジティブな解釈の欠如とも関連することが示された。この結果を踏まえると、これらの解釈は、自己のビデオ映像を観察する際に、不安感情を高め、自己評価を高めることを妨害することにつながると考えられる。そのため、SAD患者を対象とする

ビデオフィードバックの際には、これらの解釈を介入したうえで実施することが求められると考えられる。従来の研究では、認知的準備 (Cognitive preparation) がビデオフィードバックの効果向上に有効であると示唆されている (Harvey, et al., 2000; Rodebaugh, 2004)。しかし、これまでにこれらの解釈がビデオフィードバックにおいて実際にどのような影響をもつかについては、十分に検討が行われていない。そのため、実際に介入効果を向上させるかどうかについては、今後の検討が必要であるといえる。

第二に、これらの解釈に対する認知的介入が、ビデオフィードバックセッションにおける介入効果を向上させる可能性が指摘できる。従来の研究では、SAD症状の改善に、特異的な解釈バイアスの変容が効果的であると示唆されている。Hirsch, Mathews, and Clark (2007) は、あいまいなシナリオについてのネガティブな解釈が、ポジティブな解釈をするよう訓練された参加者よりも、よりネガティブな自己イメージと不安感情を誘発することを示した。Bear and Amir (2008) は、コンピューターによる解釈修正プログラムを用いて、より良い解釈に反応した際にポジティブなフィードバックを受け取ることにより修正された参加者の解釈が、脅威的解釈やSAD症状の減弱することを示した。これらを踏まえると、ビデオフィードバックの今後の検討では、ビデオ映像に関する解釈についての認知的介入の効果について検討を進めることが求められるといえる。

本研究では、いくつかの今後の検討についての限界と展望が指摘できる。今後の研究では、まず、ビデオ映像に関する解釈に対する特異的な認知的介入の効果を検討することが求められる。従来のビデオフィードバック研究では、認知的準備による自己評価の改善効果が示されていた。しかし、これらの研究においては、その際のビデオ映像に対する解釈の変容が示されてこなかったため、これらの要素を考慮した検討が期待される。また、本研究の参加者は、大学生のみを対象としていた。そのため、今後の検討においては、臨床群を対象として、比較検討を行うことについても求められるといえる。

Table 1 Factor analysis of VIQ

	Negative	Positive
他の人がみたら私は低く評価されるだろう	.90	.15
ビデオに映った自分の姿はみっともない	.81	-.02
自分の悪い点にばかり気づいてしまう	.78	-.04
他の人におどおどしている印象を与えるだろう	.72	.07
恥ずかしくて見てもらえない	.68	-.14
自分の良さを確認することができる	.01	.80
他の人に友好的な印象を与えるだろう	.03	.77
他の人に自信がある印象を与えるだろう	-.03	.68
他の人に落ち着いた印象を与えるだろう	.13	.53
ビデオを見続けても苦にならない	-.25	.50

Table 2 Means and standard deviations of each measure

	Mean	SD
SFNE	41.12	9.30
SIAS	34.31	15.59
SPS	17.58	14.62
SDS	42.67	8.29
VIQ-negative	14.21	4.72
VIQ-positive	10.51	3.25

Table 3 Correlations between VIQ and each scale

	SFNE	SIAS	SPS	SDS	VIQ-negative
SIAS	.45**				
SPS	.42**	.72**			
SDS	.30**	.52**	.46**		
VIQ-negative	.40**	.64**	.60**	.45**	
VIQ-positive	-.21**	-.27**	-.18*	-.27**	-.48**

\*p < .05, \*\*p < .01

Table 4 Partial correlations between VIQ and each scale by controlling for SDS

	SFNE	SIAS	SPS	VIQ-negative
SIAS	.36**			
SPS	.33**	.63**		
VIQ-negative	.31**	.53**	.49**	
VIQ-positive	-.14**	-.16**	-.06	-.41**

\*p < .05, \*\*p < .01

## Acknowledgement

本研究の一部は、科学研究費助成事業学術研究助成基金助成金若手（B）の助成を得て行われた。

## 引用文献

- American Psychiatric Association. (1994). Diagnostic and statistical manual of mental disorders (4th ed.). Washington, DC: Author.
- Barrett, J., Hurst, M. W., DiScala, C., & Rose, R. M. (1978). Prevalence of depression over a 12-month period in a nonpatient population. *Archives of General Psychiatry*, 35, 741–744.
- Beard, C., & Amir, N. (2008). A multi-session interpretation modification program: changes in interpretation and social anxiety symptoms. *Behaviour Research and Therapy*, 46, 1135–1141.
- Biggs, J. T., Wylie, L. T., & Ziegler, V. E. (1978). Validity of the Zung Self-rating Depression Scale. *British Journal of Psychiatry*, 32, 381–385.
- 陳峻雯 (2005). 社会不安障害に対する集団認知行動療法の効果 平成15–16年度文部科学省科学研究費補助金 若手研究 (B) 研究成果報告書.  
(Chen, J. (2005).)
- Clark, D. M., & Wells, A. A. (1995). Cognitive model of social phobia. In R. G. Heimberg, M. R. Liebowitz, D.A. Hope, & F.R. Schneier (Eds.). *Social phobia: Diagnosis, assessment, and treatment*. New York: Guilford Press. Pp. 69–93
- Constans, J. I., Penn, D. L., Ihen, G. H., & Hope, D. A. (1999). Interpretative biases for ambiguous stimuli in social anxiety. *Behaviour Research and Therapy*, 37, 643–651.
- Foa, E. B., Franklin, M. E., Perry, K. J., & Herbert, J. D. (1996). Cognitive biases in social phobia. *Journal of Abnormal Psychology*, 105, 433–439.
- 福田一彦・小林重雄 (1973). 自己評価式抑うつ性尺度の研究. *精神神経学雑誌*, 75, 673–679.,  
(Fukuda, K., & Kobayashi, S. (1973). A study on a Self-Rating Depression Scale. *Psychiatria et Neurologia Japonica*, 75, 673–679.)
- Harvey, A. G., Clark, D. M., Ehlers, A., & Rapee, R. M. (2000). Social anxiety and self-impression: Cognitive preparation enhances the beneficial effects of video feedback following a stressful social task. *Behaviour Research and Therapy*, 38, 1183–1192.
- Hirsch, C. R., Mathews, A., & Clark, D. M. (2007). Inducing an interpretation bias changes self-imagery: A preliminary investigation. *Behaviour Research and Therapy*, 45, 2173–2181.
- 金井嘉宏・笹川智子・陳峻雯・鈴木伸一・嶋田洋徳・坂野雄二 (2004). Social Phobia Scaleと Social Interaction Anxiety Scale 日本語版の作成 *心身医学*, 44, 841–850.  
(Kanai, Y., Sasagawa, T., Chen, S., Suzuki, S., Shimada, H., & Sakano, Y. (2004). Development and validation of the Japanese version of Social Phobia Scale and Social Interaction Anxiety Scale. *Japanese Journal of Psychosomatic Medicine*, 44, 841–850.)
- Katzelnick, D. J., & Greist, J. H. (2001). Social anxiety disorder: An unrecognized problem in

- primary care. *Journal of Clinical Psychiatry*, 62, 11–15.
- Kessler, R. C., McGonagle, U. A., Zhao, S., Nelson, C. B., Hughes, M., Eshleman, S., Wittchen, H., & Kendler, K. S. (1994). Life-time and 12-month prevalence of DSM-III-R psychiatric disorders in the United States. *Archives of General Psychiatry*, 51, 8–19.
- Leary, M. R. (1983). A brief version of the Fear of Negative Evaluation Scale. *Personality and Social Psychology Bulletin*, 9, 371–375.
- Mattick, R. P., & Clarke, J. C. (1998). Development and validation of measures of social phobia, scrutiny fear and social interaction anxiety. *Behaviour Research and Therapy*, 36, 455–470.
- Rapee, R. M. (1995). Descriptive psychopathology of social phobia. In R. G. Heimberg, M. R. Liebowitz, D. A. Hope, & F. R. Schneider (Eds.), *Social phobia: Diagnosis, assessment and treatment*. New York: Guilford Press. Pp. 41–66.
- Rapee, R. M., & Hayman, K. (1996). The effects of video feedback on the self-evaluation of performance in socially anxious subjects. *Behaviour Research and Therapy*, 34, 315–322.
- Rapee, R. M., & Heimberg, R. G. (1997). A cognitive-behavioral model of anxiety in social phobia. *Behaviour Research and Therapy*, 35, 741–756.
- Rapee, R. M. & Lim, L. (1992). Discrepancy between self and observer ratings of performance in social phobics. *Journal of Abnormal Psychology*, 101, 727–731.
- Rodebaugh, T. L. (2004). I might look OK, but I'm still doubtful, anxious, and avoidant: The mixed effects of enhanced video feedback on social anxiety symptoms. *Behaviour Research and Therapy*, 42, 1435–1451.
- 笹川智子・金井嘉宏・陳峻雯・鈴木伸一・嶋田洋徳・坂野雄二 (2003). FNE短縮版の信頼性妥当性の検討 日本心理学会第67回大会発表論文集 293.  
(Sasagawa, T., Kanai, Y., Chen, S., Suzuki, S., Shimada, H., & Sakano, Y.)
- 笹川智子・金井嘉宏・村中泰子・鈴木伸一・嶋田洋徳・坂野雄二 (2004). 他者からの否定的評価に対する社会的不安測定尺度 (FNE) 短縮版作成の試み — 項目反応理論による検討 — 行動療法研究, 30, 87–98.  
(Sasagawa, S., Kanai, Y., Muranaka, Y., Suzuki, S., Shimada, H., & Sakano, Y. (2004). Development of a Short Fear of Negative Evaluation scale for Japanese using Item Response Theory. *Japanese Journal of Behavior Therapy*, 30, 87–98.)
- Schaefer, A., Brown, J., Watson, C. G., Plemel, D., DeMotts, J., Howard, M. T., Petrik, N., & Balleweg, B. J. (1985). Comparison of the validities of the Beck, Zung, and MMPI depression scales. *Journal of Consulting and Clinical Psychology*, 53, 415–418.
- Smits, J. A. J., Powers, M. B., Buxkamper, R., & Telch, M. J. (2006). The efficacy of videotape feedback for enhancing the effects of exposure-based treatment for social anxiety disorder: A controlled investigation. *Behaviour Research and Therapy*, 44, 1773–1785.
- Stopa, L., & Clark, D. M. (2000). Social Phobia and interpretation of social events. *Behaviour Research and Therapy*, 38, 273–283.
- Turner, S. M., Beidel, D. C., & Larkin, K. T. (1986). Situational determinants of social anxiety in

clinic and nonclinic samples: Physiological and cognitive correlates. *Journal of Consulting and Clinical Psychology*, 54, 523–527.

Turner, S. M., Beidel, D. C., Townsley, R. M. (1990) . Social phobia: Relationship to shyness. *Behaviour Research and Therapy*, 28, 497–505.

Watson, D., Friend, R., 1969. Measurement of social-evaluative anxiety. *Journal of Consulting and Clinical Psychology*, 33, 448–457.